

学校名	丹波市立氷上中学校
-----	-----------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
「郷土を愛し、意欲的に学び、 こころ豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」	(1)「わかる」、「できる」を実感できる授業実践と、学び続ける意欲を持つ生徒の育成 (2)早期発見・即対応で、不登校生徒ゼロ (3)授業、部活動などすべての教育活動において、生徒の「居場所づくり」を推進し、いじめの未然防止を図る (4)仲間との連帯感を深め、他者への思いやりにあふれた生徒の育成 (5)心身ともに健康で、活力に満ちた生徒の育成 (6)地域に信頼される開かれた学校づくり、地域に開かれた教育課程の編成 (7)キャリア教育の推進 (8)勤務時間の適正化を図り、教職員が居場所を実感できる学校、会話が弾む職員室を作る

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	保護者・地域住民との連携	生徒の様子や授業参観、懇談会、学校行事等の案内など、学校の教育活動の情報を学校だよりやHP等で保護者・地域へきめ細かく伝える。	A	学校便り、学年通信、保健だより等で学校の様子を知らせることができた。また、ホームページの「校長室の窓」「子どもの様子」が随時更新され、学校行事や生徒による教育活動を、きめ細やかに保護者に情報発信することができた。今後も継続して、子どもたちの様子を地域や保護者へ伝えていきたい。そして、本校教育の趣旨、教育活動を深める方策が必要と思われる。
		保護者・地域住民の方々にオープンスクールや授業参観、学校行事や講演会に参加していただき、地域に開かれた学校づくりを推進する。	B	オープンスクールでは、学年ごとに「防災クイズ」(1年)「防災体験活動」(2年)「防災講演会」(3年)を実施し、地域と連携した防災教育を全校生徒で取り組んだ。またPTA教養部による教育講演会では、心や人のつながりの大切さを学んだ。体育大会、文化祭では多くの保護者や地域の方々の参加があり、生徒の生き生きとした活動を発表することができた。
	生徒指導	人権感覚を磨き、いじめを許さず、自他共に「命」を大切にするための指導や活動を充実させる。	B	いじめに関しては、いじめ防止基本方針に基づき組織的に対応しながら、生活ノートでの生徒理解など日常から積極的な認知に努めるとともに、生徒達にいじめを許さない、見逃さないという意識を根付かせることに努めた。本年度のいじめ認知件数は11件であり、今後、更に早期発見・未然防止に努め、傍観者(観衆)への指導を積極的に行っていきたい。生活・いじめアンケートや、コミュニケーションの実施など生徒との関わりを積極的にもち、生徒の変化にいち早く気づくよう努めている。アンケート結果より、学校が楽しいと感じている生徒は全校生徒の84%に達する。ただし、2年生では男女間で7%の差があるなど、男女差にも配慮し指導していかなければならない。関係機関との連携を更に密にし、個にあった対応を全教職員で共通理解し推進していきたい。
安全管理	交通安全の未然防止をはじめ、安全で安心な学校環境づくりを推進する。	学校のいろいろな活動の場面で生徒の達成感や充実感を大切に、主体的に活動できる生徒の育成を図る。	A	今年度も生徒会が中心となり、各学校行事で生徒が主体的に活動できるよう、全教職員が共通理解をもって支援にあたることができた。体育大会では、夏休み中から3年生のリーダーが中心となって活動し、1、2年生を引っ張りながら応援合戦などを成功させることができた。文化祭では、演劇やステージ発表を通して、全員で1つのものを作り上げる喜びや充実感を味わわせることができた。また日常生活の中での生徒の頑張りを評価し、達成感を味わえるように支援していきたい。
		交通安全の未然防止をはじめ、安全で安心な学校環境づくりを推進する。	B	毎月、登校指導の日(1日)や下校指導の日(15日)を設定し、生徒たちの実態に即した指導に全教職員で取り組んでいる。また、通学路の危険箇所を点検し、その都度立ち番を行い、安全に登下校できるようにした。校舎の安全点検を行い、生徒が安心して学習ができる環境づくりに努めている。今年は猛暑であったことから熱中症対策について校内研修を行い、具体的対策を立てて予防に取り組んだ。また、文化祭では、第1学年が「安全～考えよう!危険はみんなのすぐ目の前～」というテーマで取り組み、生徒の防災意識を高揚できるようステージ発表や展示発表を行った。
教育課程	特別支援教育	特別支援教育の推進や支援の必要な生徒に対するきめ細かな教育、さらに不登校生徒減少に向けての取組の推進と充実を図る。	C	特別支援教育の共通理解に関しては、教職員の88%が肯定的に評価しており、夏季校内研修会では「発達障害の理解と支援」のテーマで研修を深めることができた。特別支援教育委員会も定期的に開催しており、在籍生徒の情報交換や課題等を協議している。また、小中連携に関しては、76%の肯定的な評価があり、交流会の開催や授業参観等で、個に応じたカリキュラム編成や教職員への共通理解を図っている。不登校生徒については、今年度14名になった。児童生徒支援委員会を定期的に開催し、組織的に対応し、粘り強く取り組んでいる。
		基礎学力の定着と学力向上をめざして、家庭学習の充実や朝読書に取り組む。	C	朝読書については、毎朝10分間読書の時間を設け、学級文庫を設置するなど生徒が本に触れ合う機会が増えるように学校全体で取り組んでいる。家庭学習の定着については、生徒へのアンケートでは、1日の学習時間が1時間までの生徒が60%近くで、決して多いとは言えない。家庭学習の大切さや家庭学習の方法を伝えるなどして、学習の習慣を身に付けることができるように取り組んでいきたい。
学習指導	授業内容の充実と改善を図り、全ての教員が「たんば授業スタンダード」を取り入れた授業を実践する。	授業内容の充実と改善を図り、全ての教員が「たんば授業スタンダード」を取り入れた授業を実践する。	C	主体的・対話的で深い学びに繋がる授業づくりについて、校内授業研修会の計画的な実施、各教師による日常の授業づくり等により全教職員が授業内容の充実と改善に取り組んだ。アンケートでは、「楽しくわかる授業」について、生徒・保護者とも約80%が肯定的に答えるなど取組の成果が表れている。一方、苦手な生徒へのフォローやさらなる授業改善を期待する要望もあり、引き続き、研修等による継続した取組が必要である。今後は全国・学力学習状況調査結果の分析を授業改善に生かしたり、ICTを効果的に活用した授業づくり等についての研修が必要になる。

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
ホームページが今年度も毎日更新され、その日の生徒や学校の様子が解りやすい。地域や保護者に子どもの様子や学校の取組の様子を発信することは大切である。全戸に広報することは難しいが、工夫して方策を考えるべきである。今年度のオープンスクールは11月下旬の平日(3日間)に開催したことにより、来校者は減ったかもしれないが、来年度も生徒の熱心に頑張っている姿を見せてもらいたい。オープンスクールを3日間連続ではなく、学期に分散してはどうかという意見もあり、今後考えていただきたい。保護者以外の大人、例えばゲストティーチャーなどを積極的に受け入れてはどうか。体育大会や文化祭では、日々の練習の成果が発揮されていた。
全体では落ち着いて学校生活が送れていると思われる。「いじめ」に対しては早期発見・早期対応を学校全体で組織的に対応されている。今後も定期的にアンケートを取りながら細かな生徒観察、生徒理解し指導することを求める。SNSやLINE上の生徒間トラブルも年々増加傾向にあり、来年度も生徒や保護者を対象に講習会等で正しいスマホの使い方を指導する必要がある。体育大会や文化祭では3年生のリーダー中心に熱気のある演技や生き生きとしたステージ発表を見せて頂いた。来年度も更なる期待をしている。いじめはあっても不思議ではなく、「どの生徒、どの学校でもおこり得る。」というのが今の考え方である。担任がひとりで抱えこまないようにすることも大切である。
東小学校区の昨年度の大幅な通学路変更は良かったと思われる。今後とも交通安全指導を学校や地域で継続的にお願いしたい。PTAや地域、職員による定期的な登下校指導を地道に繰り返しながら、安全管理を来年度も願いたい。「中学生の交通マナーがひどい。」という苦情が地域の方からあるが、全体的には良好だと思われる。地域全体で生徒を指導することも大切である。絶対に安全という通学路はないので、一人ひとりの意識を高めることが大切である。
6学級29名の特別支援学級に在籍する生徒に対して、学校組織として全職員で支援体制を整えて取り組んでいる。また関係機関とも連携しながら、教職員の技術向上に向けた研修会を実施し、2学期後半から3学期にかけて、来年度に入学する予定の生徒情報交換を各小学校と密に行われている。不登校生徒に対しても担任だけが抱え込まず、今後も学年、学校全体の問題として取り組んでいただきたい。来年度も生徒支援担当や養護教諭も含めて全職員で指導体制を整える必要があると思われる。不登校生徒を出さないように学年の雰囲気を作ることが大切である。教師が生徒をしっかり見ることと指導の在り方は重要である。
「わかる授業」を日頃から取り組んで欲しい。生徒は理解できて初めてやる気生まれる。今後とも先生方全員で協力して取り組んでもらいたい。学校内では学期ごとに研究授業が行われ、授業形態にも工夫がなされていると聞いている。今後とも学力向上に向けた授業改善をしつつ「わかる授業」を目指してほしい。平均的な家庭学習時間が1時間に満たない生徒が半数以上いる。またゲームやスマホに費やす時間も非常に増えているが、学校だけではなく家庭の協力を得ながらよりよい学習指導をお願いしたい。又、学力調査の結果は分析した結果や課題を教師に返し、共有してうまく活用すべきと考える。
自己評価の実施方法についての評価 保護者による自由意見も多数いただき、正確に保護者の学校に対する意識や気持ちを理解することができた。生徒アンケート、保護者アンケート、教職員の自己アンケートも適切な時期に実施され、それぞれのデータも確実に分析されており、今後この方法で取り組まれることを期待する。
学校関係者評価のまとめ ホームページの更新や学校通信、学年通信、保健だより等などの保護者への案内など保護者や地域とのつながりを意識した取組がなされている。学校と地域や家庭との連携をさらに図れるように取組を継続していただきたい。生徒たちの活動も生徒会を中心に行事など充実している様子が見られる。学力向上や特別支援など多くの課題は山積しているが職員全体で解決していく必要がある。今後も生徒の現状を理解、分析を行いながら教職員全体で意思疎通を図り、組織として取り組んで欲しい。学校全体が落ち着いており、学校行事等に生徒は積極的に参加し、学校生活を送れているように思える。しかしながら、スマホや携帯に関わる生徒間のトラブル等が学年を問わず起きている。保護者と学校で、関係機関と連絡を密にしながら、その実態を確実に把握し継続的に指導を続けることが必要と思われる。

※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育
※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ① 不登校を防ぐ組織的な対応や指導の実施と的確な早期対応を実施する。
- ② 学力向上のための授業の工夫改善の推進と「主体的、対話的で深い学び」の実現を図る授業の展開を進める。
- ③ HPや通信等による情報発信により保護者との信頼関係の構築をはかるとともに地域との連携を強化する。
- ④ 秩序ある落ち着いた学校づくりと地域に開かれた教育課程の実現を図る。

平成 31 年 3 月 7 日

学校名 丹波市立氷上中学校
校長名 足立 幸広 印